1998 年国際がん登録学会（IACR）に参加して

井上真奈美
愛知県がんセンター疫学部

1998 年 8 月 17- 19 日に米国ジョージア州アトランタにおいて、第 32 回 IACR 学会が開催され、わが国からは岡本先生（神奈川）、早田先生（長崎）、田中先生（大阪）、浜島先生及び井上（愛知）の計 5 名が参加しました。今回のメインテーマは"Genetics in Population-Based Cancer Research"であり、地域がん登録の学会としてはいつもとやや視点が異なり、どのような展開となるのか不安でしたが、実際には前日に行われた Genetics and Cancer Epidemiology Workshop も含めて米国内外からのべ 250 名余の参加があり、内容も大変充実したものでした。

Genetics と地域がん登録を関連づけたサブテーマの中で、特に印象に残ったのは、**地域がん登録における個人情報の取扱い**に関する米国各地や世界各地域からの報告でした。米国のいくつかの登録室から登録情報管理の実態報告がありましたが、登録室のある建物のセキュリティ管理だけでもわが国の銀行の金庫並みかそれ以上であるのに、その上にデータのやりとりでの暗号化の徹底が定着していて、わが国との意識の差にショックを受けました。また、がん登録を遂行するための法律や個人情報保護関連規定の整備について、欧米の先進国ではかなり達成されているようでした。それに引きかえ、アジア地域の現状報告では、この点に関するアジアの遅れが浮き彫りとなり、経済先進国と自負するわが国も決して例外ではありませんでした。結局は、まず国レベルが「先進国では当然のインフラ」である地域がん登録に対する認識を改めなければ、わが国が地域がん登録先進国と正々堂々肩を並べる日は遠いと感じました。

展示会場では、米国の地域がん登録にも対応した院内がん登録入力支援ソフトが数多く展示されており、その半分以上は企業による開発で、こんなものまでビジネスにしてしまう米国人のたくましさには半分感心し半分呆れました。

IACR 学会は、日頃地域にこもりがちながん登録担当者が、他国のがん登録担当者と親交を深め、自登録を客観的に見つめ直すのに大変良い機会であると思います。わが国からさらに多くの参加者があることを希望します。

お知らせ　地域がん登録研究班による罹患率全国推計値公開

味木和喜子
大阪府立成人病センター調査部

１．はじめに

厚生省がん研究助成金による「地域がん登録」研究班（主任研究者：大島　明）では、毎年、登録精度の良好な登録室の成績を基に、全国がん罹患数および罹患率を推計している。今回、これらの資料の利用を促進するために、1975 年から最新年（1993 年）までの成績を磁気媒体で準備し、広く提供することとした。

２．データの内容

以下の成績を、3 種類のファイル形式（EXCEL97、CSV、固定長）で準備した。率は全て人口 10 万人に対する率である。

① 全国年齢階級別推定罹患数，部位，性，診断年別
② 全国年齢階級別推定罹患率，部位，性，診断年別
③ 全国推定年齢調整罹患率，部位，性，標準人口，診断年別
④ 全国日本人および総人口，年齢階級，性，暦年別

部位：全部位*1、全部位、口腔・咽頭、食道、胃、結腸、直腸、肝臓、胆嚢・胆管、膵臓、喉頭、肺、皮膚、乳房*1、子宮*1、子宮、子宮頸、子宮体、卵巣、前立腺、膀胱、腎など、脳・中枢神経系、甲状腺、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、の 27 部位　　（*1 上皮内がんを含む）

３．データの入手方法

データの利用にあたっては、「全国がん罹患数・率の推計値」利用申込書を提出していただく。これは、資料の利用状況を把握することが目的である。利用者は、①資料を他人に譲渡しないこと、②「地域がん登録」研究班の推計であることを明示し、Japanese Journal of Cancer Oncology の Epidemiology Note（1998; 28(10) 641-647）を引用すること、③別刷もしくはコピーを送付すること、を遵守いただきたい。利用申込書およびデータは、大阪府立成人病センター調査部のホームページ（http://www.iph.pref.osaka.jp/omc/ocr）より入手できる。データは、圧縮されており、利用申込書が提出されると、データを解凍するためのパスワードをお送りする。フロッピーを希望される場合は、2HD のフロッピー1 枚と切手を貼った返信用封筒を同封し、研究班事務局（味木）宛に送付いただきたい。

４．今度の方向

今まで推計が困難であった発生率の低いがん（精巣がんなど）について、推計方法を検討し、稀ながんの全国値を整備していく。これらの成績も、今後提供する予定である。